

令和4年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指し「学びの連続性」「個人のニーズに合わせた教育」を推進する。	・作成した体育の「教科指導内容表」を基に実践を進める。 ・他教科について指導内容表の作成に取り組む。	・令和3年度に作成した各学部の「教科指導内容表」を基に、実践を進めながら学部の系統性に沿った修正を行う。 ・各教科会で指導内容表の作成に向けた検討・実践を行う。	・体育について学部間の系統性を考えた内容表の検討・修正ができたか。 ・体育以外の教科で指導内容表の作成に向けた取組が実践されたか。
		・児童・生徒の命を守る教育を推進する。	・学校全体の防災教育計画を検討し、体系化する。	・令和3年度に集約した各学部の授業実践を基に、防災教育計画を検討する。	・学校全体の防災計画が検討・体系化されたか。
2	児童・生徒 指導・支援	・アセスメントを充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	・計画的にアセスメントを実施する中で、根拠に基づいた課題の分析を反映させた個別教育計画を作成する。	・アセスメントの観点を整理し、計画的にアセスメントを実施する。 ・各学級でアセスメントに基づいた、個別教育計画を作成する。	・各学部・学年で計画的にアセスメントが実施できたか。 ・各学級でアセスメントに基づいた、個別教育計画を作成できたか。
		・インクルーシブ教育に係る本校の役割を模索し、推進する。	・学校行事等を通して取り組める、新たな交流方法を検討し、計画・実践に結びつける。	・学校行事(作業班バザー等)を通して取り組める、オンラインも含めた新たな交流方法を検討し、計画を作成、実践する。	・学部行事等を活用した交流の計画ができ、実践に結びつけられたか。
3	進路指導・支援	・卒業後の生活を見通し、小・中・高それぞれのライフステージに応じた進路指導・支援を実施する。	・改訂した進路指導の手引きの内容を教員間で共有し、保護者学習会等でわかりやすく説明する。	・各学部で開催の保護者対象の進路学習会にて、令和3年度に改訂した手引きを基に、身に付けたい力と、具体的な取り組みを説明する。	・保護者に進路学習会のアンケートを実施し80%以上の理解度。
4	地域等との 協働	・学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。	・農園での野菜づくり及び遊び場づくりを地域との連携で進め、校内での活用を充実させる。	・市の環境事業局等との土づくりなど連携を通して、品質の良い野菜作りのための生徒の活動を改善する。 ・地域と連携し遊びのメニュー・環境整備から児童・生徒の活動を増やす。	・地域との連携により、生徒の活動が改善されたか。 ・農園での遊びのメニュー・活動日・参加数が増えたか。
		・センター的機能の更なる推進を図る。	・地域を支援する人材の育成を図る。 ・本校の特別支援教育のノウハウを発信する。	・子ども支援班の会議・職員研修会を通し、地域の学校の要望や職員が身に付けたい力を周知する。 ・教育活動や教材教具・支援の手立てなどを学校巡回訪問時やHP等で発信する。	・研修会後のアンケートで90%以上の肯定的評価が得られたか。 ・HPやプリント配付で情報発信が進んだか。
5	学校管理 学校運営	・事故不祥事防止を徹底する。	[事故]不祥事防止会議・研修会において、事故・ヒヤリハット事例について職員で共有する。 [人権]各学部(学年)で、テーマを設定、人権に配慮した行動に取り組む。	[事故]学期に一度、事例の具体や傾向を不祥事防止研修会にて職員間で共有する。 [人権]各学部(学年)で、学期ごとに行動テーマを設定し、人権に配慮した行動に集中的に取り組む。	[事故]学期に一度、事故・ヒヤリハット事例の共有ができたか。 [人権]学期ごとにテーマを設定し、取り組めたか。
		・児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。	・業務の効率化・縮減を見える化する。	・各グループ・学部で運営計画に「校務の効率化」について位置付ける。 ・職員からのアイデアを集め、職員会議・ポータルサイトを活用し、職員間で周知する。	・各グループ・学部で位置づけられたか。 ・アイデアを周期できたか。